

キャッチフレーズ

若者視点を活用した県づくり

現状・課題

- 1 今学生が感じていること
 - ・公共交通機関の運賃が高く、本数が限られている。
 - ・国立大学の数が少ない。
 - ・寮が2人1部屋なのでプライバシーなど気がつかう。
 - ・大学生協の商品価格が高め。
 - ・学ぶ場の環境設備が十分でない。
 - ・学食を毎日利用したいが、高いと感じる。
 - ・地域社会と学生との関わり・連携が少ない。
 - ・大学で学んだことを活かせる就職先が少ない。
 - ・就職活動と学業を両立させることの難しさ。
 - ・長野県内（特に地元）で就職したいが、雇用数が少ない。
 - ・外国籍児童・未就学児童・不登校に対する支援が不十分
- 2 他県に誇れる長野県の強み
 - ・健康長寿県（平均寿命が男性全国1位、女性全国5位）
 - ・高齢でも元気に暮らしている人が多い（高齢者就業率が全国1位）。
 - ・製造業（ものづくり）の技術力が高い。
 - ・美しい自然環境（山・河川・森林・空気）に恵まれている。
 - ・都会のように賑やかではないが、暮らしやすい環境がある（落ち着いた心豊かな暮らしができる）。
 - ・農産物が豊富で、新鮮で美味しい食材が手に入る。
 - ・長野県で就職したいと希望している若者が多い。
 - ・地域ごとに特色がある暮らし（食・伝統行事・方言など）

取組・方策

長野県の強みを活かした良い循環を創る。

⇒長寿県長野の健康・医療・介護の新事業を創造⇒雇用の促進⇒県内定住者の増加
⇒他県や他国のモデルケースへ⇒経済活性化

⇒公共交通機関の運賃が安くなる⇒省エネ・エコのために公共交通機関の利用促進
⇒環境を大切に作る長野県をアピール⇒長野県の鉄道・車両の魅力を再発見⇒利用者数の増加

課題から見えてきたもの

- ・学生が積極的に地域に関わる必要がある（地域社会の課題・問題を自らの事として捉えられるようになる。）
- ・その中から自分たちが出来ることは何かを探し出す事で、新たな発見・創造に繋がっていく。
- ・そのためには物事の成り立ちや背景をより深く知ることが重要！！
- ・理由の「見える」化を更に進める取組が求められる。

提案として

- ・学校教育の場で地域の課題・問題について議論する学び学習のカリキュラムを増やす。
- ・仕事や家族を持ってからでも学校で再び学ぶ時間が得られる制度づくり
- ・様々な社会的背景（年齢・国籍・立場）を持つ人たちが多様に学べる場と機会の提供
- ・学生の学びの成果を地域社会に還元する仕組みの強化（新しい産業や企業の創造）